

環境活動レポート

活動期間 2008年12月～2009年3月

作成：2009年3月25日

改訂：2009年6月 8日



MASUDA 株式会社 マスダ

目 次

1 事業活動の概要	P 1
2 環境方針	P 2
3 環境目標とその実績	P 3 . P 4
4 主要な環境計画の内容と実績	P 5 . P 6
5 環境活動の取組結果の評価	P 7
6 環境関連法規への違反・訴訟の有無	P - 8
7 グリーン調達	P - 8
8 地域社会との協調	P - 8

1. 事業活動の概要

□ 会社概要

事業所名 株式会社 マスダ
 代表者名 代表取締役 増田 清
 所在地 〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 6689-1
 (本社) TEL 0265(85)2086 FAX 0265(85)4277

事業内容 医療機器・光学機器・空気油圧機器等の部品加工と組立。
 精密部品加工用治工具・一般製造組立。
 パイプ曲げ・銀ろう付加工。



シートメタル事業部・・・パンチ・レーザー複合機・曲げ・溶接加工。



食品部『宮田とうふ工房』……地元産大豆使用食品製造・販売。



認証・登録範囲

株式会社 マスダ 本社
 長野県上伊那郡宮田村 6689-1
 (製造1課・製造2課・東工場・シートメタル事業部・食品部)

有限会社 増田精機
 長野県上伊那郡宮田村 6641-1
 (100%株式会社マスダ出資の下請会社の為、範囲内とする。)

株式会社 マスダ 東京事務所
 東京都八王子市散田町 5-15-12 秋山ビル 105
 (今後の動向が不透明な為、範囲外)

資本金
 述べ床面積
 従業員数
 環境管理責任者

1,500 万円

2,400 m²

142 人

専務取締役 増田 博

連絡先 TEL 0265(85)2086

E-mail kmasudas@triton.ocn.ne.jp

2 . 環 境 方 針

株式会社マスダは、精密部品の製造・組立、及び大豆食品の製造販売にあたり、大気汚染予防・省エネルギー・廃棄物の低減を重点とした、環境保全に取り組んで参ります。

また、自然環境に優れたこの地域の模範となるべく、社員一人一人が環境に対しての意識を高め、地域の環境改善、環境に配慮した生産に取り組みます。

- 1 . 環境関連の法令、政令、条例を遵守し、環境保全に努めます。
- 2 . 省エネルギー、廃棄物の低減及びリサイクルに取り組み、環境に配慮した生産に取り組みます。
- 3 . 汚染の防止に努め、地域の環境に配慮します。
- 4 . 会社全体にて取り組んでいる5 S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を継続し、より良い環境での生産に努めます。
- 5 . 食品の販売数、製造数管理の改善により、廃棄物の低減に取り組みます。また、廃棄物の肥料化、再商品化に取り組むことにより食品リサイクルの向上に努めます。
- 6 . 環境方針に基づき、環境目標を定め、活動計画に沿って活動します。また、定期的に見直しを実施します。
- 7 . 環境方針を全従業員に周知させ、環境教育を実施し、環境保全に対する意識の向上に努めます。

作成：2008年10月1日

改訂：2009年5月18日

株式会社マスダ
代表取締役 増田 清

3 . 環境目標とその実績

□ 環境目標

2007年度 実績に対し、2008年からの3年間で、
二酸化炭素(CO₂)排出量・廃棄物排出量・水資源投入量 について3%削減する。

2007年度 実績に対し、2008年からの3年間で、
食品廃棄物再生利用等の実施率 について3%向上する。

□ 2007年度 実績 (基準値)

	単 位	実 績 値
二酸化炭素(CO ₂)排出量	kg-CO ₂ /1,000万円	126.62
廃棄物排出量	kg/1,000万円	3875.95
水資源投入量	m ³ /1,000万円	91.98
食品廃棄物 再生利用等の実施率	%	79.60

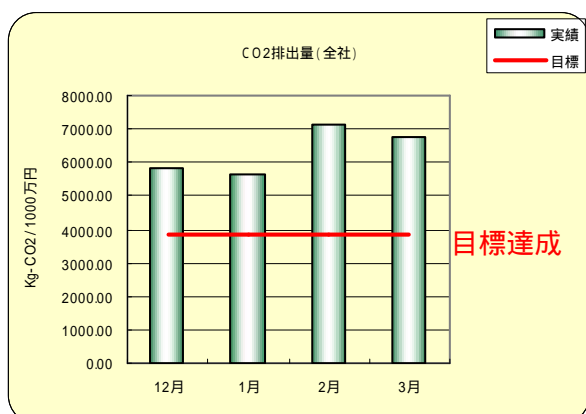
□ 2008年度～2010年度 目標 (短期、中長期目標)

	単 位	今年度目標		
		2008年度目標 (1%削減)	2009年度目標 (2%削減)	2010年度目標 (3%削減)
二酸化炭素(CO ₂)排出量	kg-CO ₂ /1,000万円	3837.19	3798.43	3759.68
廃棄物排出量	kg/1,000万円	125.36	124.09	122.82
水資源投入量	m ³ /1,000万円	91.06	90.14	89.22
食品廃棄物 再生利用等の実施率	%	80.4	81.2	82.0

□ 2008年度 実績 (2008年12月から2009年3月の4ヶ月間)

	単 位	2008.12月	2009.1月	2009.2月	2009.3月
二酸化炭素(CO ₂)排出量	kg-CO ₂ /1,000万円	5850.58	5625.13	7153.18	6777.70
廃棄物排出量	kg/1,000万円	134.26	149.00	158.72	141.88
水資源投入量	m ³ /1,000万円	134.98	149.18	183.77	170.84
食品廃棄物 再生利用等の実施率	%	82.1	87.1	94.4	94.5

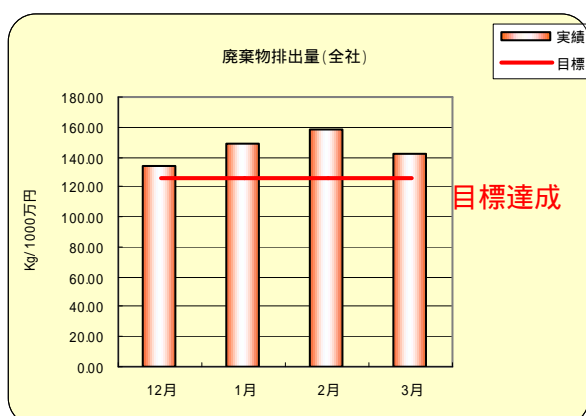
2008年度 目標達成状況 (2008年12月から2009年3月の4ヶ月間)



二酸化炭素(CO₂)排出量

	12月	1月	2月	3月
目標値	3837.19			
実績値	5850.58	5625.13	7153.18	6777.70
達成率	65.6%	68.2%	53.6%	56.6%

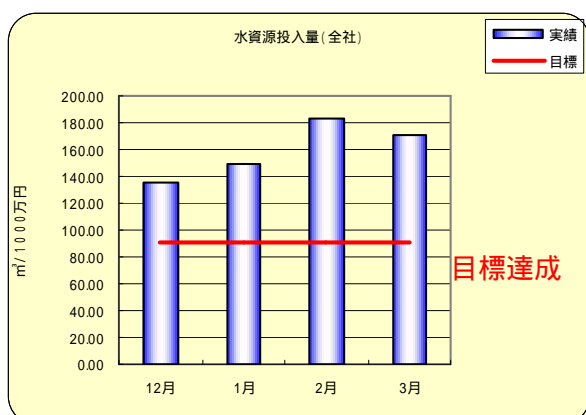
達成率は約60%と悪い数字になっているが、売上との対比になっているため、現段階での売上減の状況ではやむを得ない。



廃棄物排出量

	12月	1月	2月	3月
目標値	125.36			
実績値	134.26	149.00	158.72	141.88
達成率	93.4%	84.1%	79.0%	88.4%

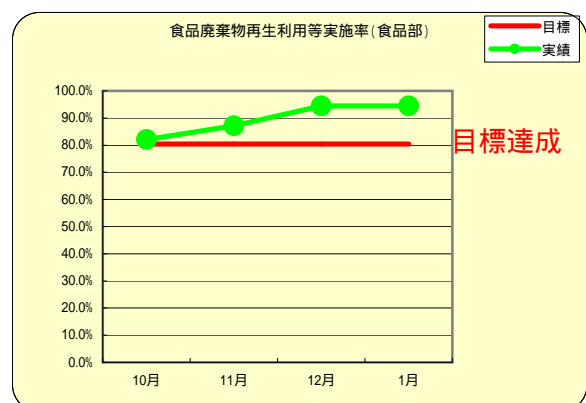
達成率に関しては未達成ではあるが、売上との対比になっているため、現段階での売上減の状況ではやむを得ない。しかし、活動は積極的に行われており数字では表れない効果は出ている。



水資源投入量

	12月	1月	2月	3月
目標値	91.06			
実績値	134.98	149.18	183.77	170.84
達成率	67.5%	61.0%	49.6%	53.3%

達成率に関しては未達成ではあるが、売上げの減少から判断すると確実に効果が出ている。



食品廃棄物再生利用等の実施率

	12月	1月	2月	3月
目標値	80.4%			
実績値	82.1%	87.1%	94.4%	94.5%
達成率	102.1%	108.3%	117.4%	117.5%

当初から高いリサイクル率であったが、積極的な活動により、更なる改善が見られる。

4 . 主要な環境活動計画の内容と実績

☐ 二酸化炭素(CO₂)排出量削減

冷暖房の温度管理 (全社)

部門毎、決められた設定温度で管理。
リモコン周辺へ設定温度を表示。



不使用時の照明消灯 (全社)

節電表示を主要な場所へ表示。
朝礼等により不使用時、休憩時の照明消灯
を各部門毎周知。



運転時の急ブレーキ、急発進防止 (全社)

社用車の鍵にキーホルダータイプの表示をして
注意を促す。
朝礼等による定期的な周知。



アイドリングストップ (全社)

車両の出入がある場所に立て看板を設置。
社外への協力も同時に促す。
朝礼等による定期的な周知。



☐ 廃棄物排出量削減

廃棄物分別の徹底 (全社)

廃棄物の種類毎に色分けした全社統一ゴミ箱を
各部門毎に設置。フタ部分に廃棄物の種類を表記。



資源紙用の分別棚を各部門毎設置。



水資源投入量削減

上水道・井水の使用量削減（全社）

節水表示を主要な場所へ表示。朝礼等により各部門毎定期的な周知。



蛇口の取替え（食品部）

開閉が頻繁に行われる蛇口について、レバー式のものへの取替。
開閉時間を短縮し、無駄な水の流出を防ぐ。



食品廃棄物再生利用等の実施率向上



乾燥おからの生成（食品部）

生おからとして商品化する他に廃棄処分されるおからを乾燥させ商品化。
乾燥させる事で、廃棄物減量の効果も出ている。

乾燥おからは、その他の商品の原材料としても使用。



5 . 環境活動の取組結果の評価

- ❑ **二酸化炭素(CO₂)排出量削減 【4ヶ月間の目標達成率 61.2%】**
今回の活動期間が冬期のため、電気、灯油、についてはエアコン使用により数値が高くなっている。ガソリン・軽油については、外回りルート（食品部については行商ルート）の見直し集約等を進めることによって今後の結果が期待される。

- ❑ **廃棄物排出量削減 【4ヶ月間の目標達成率 86.3%】**
可燃ごみの分別を見直しすることにより排出量は各部門とも大幅に減少した。食品部のおから等についても、肥料化することにより大幅な可燃ごみの削減に繋がった。廃プラスチック・廃油等については、今後削減方法を検討していきたい。

- ❑ **水資源投入量削減 【4ヶ月間の目標達成率 58.0%】**
今回の活動期間が冬期のため、井水についてはエアコン使用により数値が高くなっている。上水道については、節水表示、推進委員会を通じての周知により削減傾向にある。

- ❑ **食品廃棄物再生利用等の実施率向上 【4ヶ月間の目標達成率 111.4%】**
廃棄処分されていた、消費期限切れおから等を肥料化したことによって、再生利用等の実施率の向上となった。

- ❑ **総合評価**
二酸化炭素排出量・廃棄物排出量・水資源投入量については、目標からは大幅に下回る結果となった。急激な売上減の状況では、目標未達成もやむを得ないと考えられる。
食品廃棄物再生利用等の実施率については、向上が見られた。
活動計画に対して、確実に活動が行われている内容と、やや不足している部分がある。計画通りに行われていないものについては、早急に進めて行く。個々の活動内容に対して指導が必要な部分、改善が必要なポイントが見えて来た。更なる指導と改善箇所については計画性を持って進めて行く。
活動内容や社内の意識も高まって来ており、現段階でも一定の評価はできる。今後、更に環境に対し意識が高まる活動を展開したい。

6 . 環境関連法規への違反・訴訟の有無

環境関連法規への違反はありません。

過去3年間及び4ヶ月の活動期間中、監督機関からの違反等の指摘はありません。

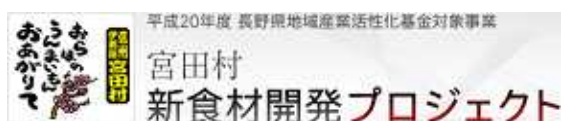
近隣からの苦情もありません。

7 . グリー ン 調 達

弊社では、グリーン調達の一環として原材料、補助材料、部品、梱包材などを購入する際、RoHS指令にて規制されている特定6物質(Pb.Cd.Cr+.Hg.PBB.PBDE)について、規制値に対応したものを購入しています。特に、Pbについては弊社の独自技術により、従来のハンダではなく銀ろうを使用するなど、環境に配慮した生活活動を行っております。

8 . 地 域 社 会 と の 協 調

弊社食品部(宮田とうふ工房)では、地元の食材を使った食品を自社店舗及び近隣のスーパー等で販売し、又発生した廃棄物を地元農家に肥料として引き取ってもらう等地域と一体となった食品リサイクルに取り組んでいます。



宮田村発の食のブランド化を目指す「宮田村新食材開発プロジェクト」を村内の食品関連会社7社で発足しました。地域資源と先人の歴史を活かしながら、今「食」への関心をよせる企業や人の連携によって、皆さまへ「安全・安心・美味・健康」をお届けし、地域をますます元気にするために研究・開発をめざしています。



イベントへの参加

同村商工祭(村商工会主催)に出展しました。地域の食材にこだわりながら開発を進めている各プロジェクトの食品を試食・販売しました。

